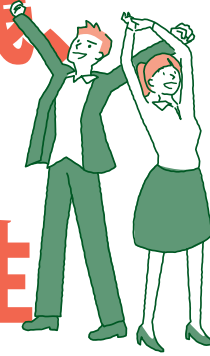


健康経営の実践 投資対効果を 測定する必要性



昨今、「健康経営」「働き方改革」に関連する題材をメディアでも目にしない日はなくなってきました。産業構造の変化により従業員の健康不調による企業の損失を防ぐことが注目されてきています。また多くの企業では、採用、離職防止、さらには生産性向上などの観点からも注目され始めています。

**健康関連リスクが高いと
損失コストが1.4倍に？**

共通の指標を用いて、その効果を経営的視点から定量的に示していくことが重要とされています。東大・産業医大にて個人の健康関連因子（「生物学的リスク」・「生活習慣リスク」・「心理的リスク」図1）とプレゼンティーズム（労働生産性）・アブセンティーズム（欠勤など）の相関分析を実施した結果、各リスク項目該当数が多いほど、プレゼンティーズム・アブセンティーズムによる生産性損失が高くなり、低リスク層に対して高リスク層は損失コストが1.4倍となることが分かりました。（図2・3）

図1

健康関連リスク		
心理的リスク ①主観的健康感 ②生活満足度 ③仕事満足度 ④ストレス	生活習慣リスク ①喫煙習慣 ②飲酒習慣 ③運動習慣 ④睡眠・休養	生物学的リスク ①血圧 ②血中脂質 ③肥満 ④血糖値 ⑤既往歴

図3

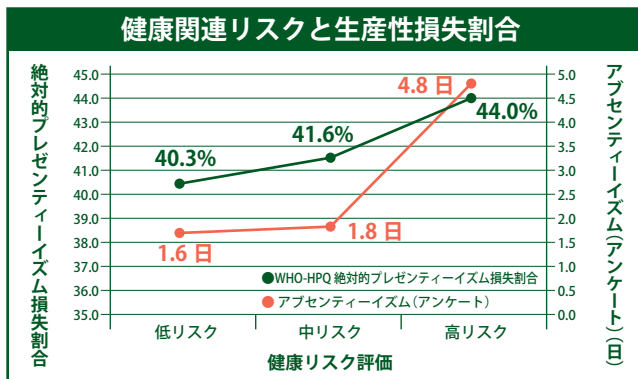
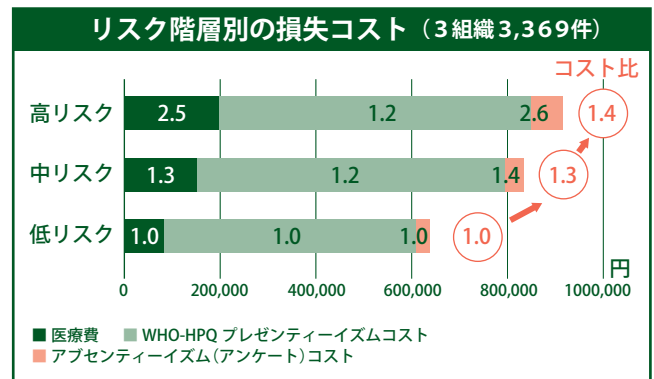


図2



※健康リスク 13 項目のうち、低リスク (0~3 個該当)、中リスク (4~5 個該当)、高リスク (6 個以上該当) に区分

参照元：第9回健康投資WG事務局説明資料①
 (アクションプラン2015の進捗状況について)
 平成28年3月3日 経済産業省 商務情報政策局より

**健康経営は組織と個人の
課題可視化から始まる**

では、どのように健康経営に取り組んでいけばよいのでしょうか。まずは組織や個人がどのような状態かを可視化する必要があります。

例えば、健康関連因子の関係をみてみると肩こりは抑うつとの関連性があるという調査結果があります。またメンタルと働きがいについては、健康経営に関する研究を手がけている島津明人先生（慶応義塾大学総合政策学部長）が「メンタル」と「ワーク・エンゲージメント」、つまり精神的な健康度合いと職場で生き生きと働けるかどうかは相関性が強いとされています。

このような関連性を踏まえ、健康経営に取り組むことで円滑に推進できる可能性が高まるのです。



組織と個人の健康課題を可視化し、健康アプリやE-ラーニングで改善する ALL IN ONE パッケージ

FiNC for BUSINESS のご案内

MESUREMENT-REPORT

組織のパフォーマンスを左右する
健康状態・課題を可視化
ウェルネスサーベイ

ストレスチェック + オリジナル設問

頭痛・偏頭痛
に悩む人の割合

64% +20%
平均 46%



×75項目

フィジカル ×31項目

メンタル ×22項目

エンゲージメント ×22項目

従業員が 97 問の設問を回答することで、プレゼンティーズムや生産性の関連項目などを可視化します。

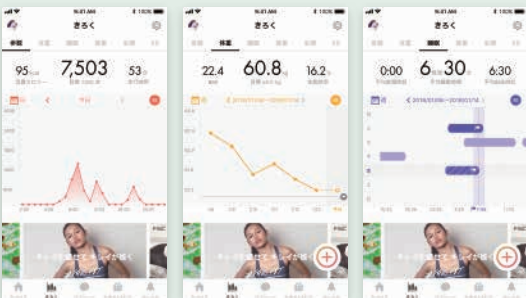


課題同士の関連を表す相関分析で、生産性に影響する要因や、他のアウトカムとの関連を導きます。

ACTIONS

いつでもどこでも好きな時に
従業員の自己管理サービス

FiNC@WORK



スマートフォン専用のアプリケーションで、歩数・体重・睡眠・食事・生理を簡単に記録できます。

ACTIONS

行動変容のきっかけを促す
ヘルスリテラシー向上サービス
ウェルネスラーニング



食事と栄養・喫煙などの全9カテゴリ・89問からなる、択一選択形式のE-ラーニングサービスです。

